

# 山麓もよう

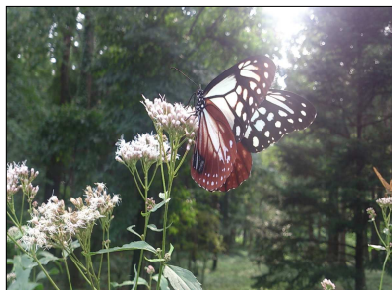
交流の家周辺の体験情報をご紹介します!

## 【赤城自然園】<http://akagishizenen.jp/>

赤城自然園は、約60ヘクタールの広大な森に種々の木々、草花、昆虫が生息している自然豊かなところ。昼間の開館時には、園のスタッフによる園内ガイドツアー。これからの季節は、体験プログラムとして1,000km以上を旅する渡りチョウのアサギマダラの謎を解くためのマーキング生態調査の体験もできます。



見事な紅葉を見ることができます。



神秘的な渡り蝶と呼ばれる「アサギマダラ」

晩秋になると、20種以上もあるカエデをはじめ木々が色づき園内を華やかに飾ってくれます。これは、一見の価値ありです。さらに、赤城自然園は、県内でも2か所しか認定を受けていない「森林セラピー基地」にも認定申請をしている場所ですので、皆さんもぜひ、足を運んで自然に包まれ身体いっぱい森林浴をしてみてください、いかがでしょうか。(文:廣澤)

- 所要時間: 交流の家から車で20分
- 住所: 〒379-1113 群馬県渋川市赤城町南赤城山892
- TEL: 0279-56-5211
- 営業時間: 9:00~16:30(入園は15:30まで)
- 秋の開園期間: 9/13(金)~10/6(日)、10/18(金)~11/17(日)
- 料金: 子ども 300円(小学生~高校生)、大人 1,000円
- ※各種体験プログラム、定期的にイベントを行っていますので、詳しくはHPをご覧ください。

### リレーcolumn すたっふの目

## 『おもてなし』

文: 中屋 恒一  
【なかや のぶかず】



いつも笑顔の中屋さん。管理係として、当所をガッチリ支えています。

ついに、2020年オリンピックが東京開催で決定しましたね。招致活動での「おもてなし」の言葉がメディアで話題になっています。

「サービス」ではなく「おもてなし」。ふと「おもてなし」を調べてみると、相手に気付かれることなく気を配ること、とか、表裏のない心で見返りを求めない対応のこと、と書かれていました。見返りなんて必要ありませんが、良いにせよ悪いにせよ赤城での生活、体験をほんの少しでもよいので覚えていただければ嬉しいです。

さらに欲を言えば、赤城で体験したこと、知り得たこと、それらが皆さんのこれからのにおけるいろんな可能性への一助になりますように。

ここ赤城青少年交流の家は教育の場ですので、教育の場ならではの赤城流「おもてなし」で皆さんをお待ちしております。どうぞご利用ください。

# つぶやき

## 【今回のつぶやきは「オススメの秋の味覚」】

- 何といっても秋刀魚でビールに限りませぬ。40歳を超えてようやくハラワタの旨さがわかるようになりました(原田)
- 柿を食べられるのは霜が降りてからと親に言われ、寒い地方では渋柿ばかりでゴマが入った甘柿が食べたーい。(松崎)
- 秋の味覚といえばなんといっても果物。なかでも、茨城県の親戚が送ってくる「なし」は格別です。(木暮)
- 所内で真っ赤なヤマボウシを食べました。甘くて美味しかったです。前橋裁判所の前の小道にもあります。(山田)
- 秋刀魚、松茸、栗に梨、後は無し。いいえ、他にもいっぱいありますね。新米も忘れずに。日本でいいね。(新井伸)
- おはぎ(ごま・きなこ)。食べるために実家に帰りたくなりますが、自分で作れという話です。(森田)
- 味に疎い私は、朝、窓を開けると雲が高く、風が冷たく感じると秋だなあと感じます。好きな季節です。(〇)廣澤
- やっぱり秋刀魚ですね。七輪で焼いて大根おろしにポン酢をかけて……。あ〜よだれが……。(根岸)
- 【マロンクリーム・モンブランケーキ】と、思い浮かべたら家族が買ってきてくれました！次は【アップルパイ】で挑戦！?(鈴木)
- 子どもの頃庭の柿を取って食べた。柿の木は折れやすくてよく落ちた。枝の先の柿が甘いんだよ。(新井義)
- 群馬県は、きのこ王国。舞茸、シメジ、椎茸等。鍋やうどんと相性がばっちりです。(星野)
- 秋は栗…とか言いたいですが。肉まんやたい焼き、コンビニのおでん大好き！！私は系コン派。(川崎)
- 少年時代: 栗ご飯と千秋楽。学生時代: 秋刀魚と日本シリーズ。最近: 月見バーガーと左クラック。(小川)
- 山頂で満月を見ながら団子を食べる月夜登山。万歳!(井上)
- 秋は、やっぱりマツタケだ〜。今年こそは食べるぞ！と、毎年つぶやく。(神山)
- 秋はなんと言っても、秋刀魚と栗ご飯！秋刀魚に大根おろしは忘れずに…！(阿佐美)
- 秋の味覚は、人工栽培が主でしょうから旬ではないのかもですが、きのこ類、特に舞茸が最高ですね。(中屋)
- 吉岡町にある鹿火屋の「いも串」が10月から販売再開！ご賞味あれ☆竹馬も出来ます(〇)/(江原)
- 私の地元、榛名は果物の街。秋になるとフルーツ街道に梨やぶどうなど沢山の果物が並びます。ご賞味あれ〜♪(黛)
- 草刈りする人しか知らない秘密のムカゴ。今年も楽しみだなあ。(高瀬)
- 群馬では稲刈りが始まりました。新米の季節ですね。お米も野菜、精米したてはおいしいですね。と言いつつ、あまりご飯を炊かない私ですが。(桜井)
- 満月を眺め、真っ赤な夕日を追って走り、夜長に本を読みまくり、胸がシュンとした昔。今は人生の秋を感じ飲んで食べるのみ。(小野里)
- 味覚の秋が近づき、美味しいものが店頭で並ぶ時期です。たくさん食べてスタミナをつけよう！今後のために！(佐藤)

## 風と太陽のくにからの通信誌

# カラゴロリ

10-11  
2013



## 「山道で凜と咲くリンドウ」

リンドウの漢名は「竜胆」。根の味が、竜の胆のように苦いことからこの漢名がつけられたと言われていますが、山道を歩く途中に見つけるリンドウの花は、疲れが吹き飛んでしまうくらい清らかな色をしており、心を癒してくれます。これからの季節、赤城の山や覚満淵でも見ることが出来ますよ。

次号は、  
12月1日発行予定!

### 風のおと

## 企業研修担当の皆様へ

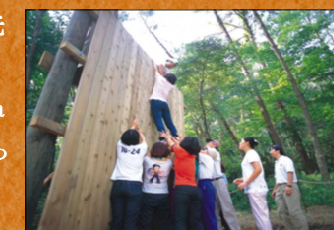
皆さまのおかげをもちまして、夏休みのご利用も、大過なく過すことができました。ありがとうございました。

これから、学校や青少年教育団体のご利用数が減ります。そして、企業の皆さんの社員研修の数が増えていきます。

企業の方々は、独自の研修カリキュラムを展開されます。しかし、私たちの行っている、あかぎアドベンチャープログラム(アメリカ発祥のプロジェクトアドベンチャーを基にした、赤城独自のプログラムです)などは、きっと企業の社員研修において、信頼関係構築の構築や、課題解決のプロセスをより具体的に体験していただくと自負しております。

この秋から冬にかけて、私自身が皆様のところにご説明に伺わせていただきたいと思います。ご興味のある企業の方、団体の方はぜひご一報ください。優先的に伺います。  
※詳しいチラシが当所のHP(<http://akagi.niye.go.jp/>)インフォメーションから見る事が出来ます。

所長 桜井義維英



## 国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp>

TEL:027-289-7224 (9:00~18:00)

FAX:027-289-7226

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27

E-mail: [akagi@niye.go.jp](mailto:akagi@niye.go.jp)

あかぎ カラゴロリ

検索

# 全員で赤城全山制覇!!

～自分で歩く、仲間と歩く一週間～

今年で2回目!!  
赤城やまなみチャレンジキャンプ

今年で2回目の開催となった「赤城やまなみチャレンジキャンプ」(以下:やまなみキャンプ)ですが、今年には群馬県内外から16名の小中学生が参加してくれました。

このやまなみキャンプは、6泊7日という長期にわたるキャンプで、宿泊場所も1か所ではなく数か所を移動してキャンプを行います。そして最大の特徴は、「やまなみ」とあるように、縦走登山がメインのプログラムとなっており、今年の目標は赤城山の主要七山である黒檜山・駒ヶ岳・鈴ヶ岳・地藏岳・長七郎山・荒山・鍋割山を全て踏破し、赤城山を制覇することでした。

毎日朝5時に起きて、1日平均8～9時間の山歩きは、正直、初めての子たちには大変な体験であったと思います。3日目以降の本格的な登山が始まると、想像以上のつらさに、心が折れそうになったり、疲れやストレスから班の雰囲気が悪くなってしまったりすることも出てきました。しかしその都度、仲間やスタッフの支えもあり、一人一人が心の壁を乗り越え、仲間との絆を深め、見事全員が全ての山を踏破することができました。

ゴールした時の達成感・充実感溢れる笑顔や、感極まって涙する姿はとても感動的でした。

今回のキャンプを通して、挑戦すること・我慢することの先にある達成感・充実感、仲間と協力することで得られる嬉しさや喜び、自分を支えてくれている周囲への感謝、そして自然への敬愛の念を深めてくれたのではないのでしょうか。

来年も多くの若きチャレンジをお待ちしております!(文:根岸)



登山口前で記念写真。  
これから最高峰「黒檜山」にチャレンジします!!

## 赤城やまなみチャレンジキャンプ スケジュール

	宿泊場所	活動内容
1日目	ざわざわ森	名札作り、テント設営、活動計画
2日目	おおさる山の家	赤城神社、滝沢不動尊、不動大滝
3日目	前橋市赤城少年自然の家	長七郎山登山
4日目	前橋市赤城少年自然の家	地藏岳～鍬柄山～鈴ヶ岳～出張峠
5日目	前橋市赤城少年自然の家	黒檜山～駒ヶ岳～覚満淵～鳥居峠
6日目	国立赤城青少年交流の家	八丁峠～荒山～荒山高原～鍋割山
7日目		ファイナルパーティー



「各班、誰一人欠けることなく全員が無事にゴール!!!」

## これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問い合わせください⇒TEL027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)



■【あかぎカップ中学生交流秋季野球大会】  
・10/26(土)～27(日)  
群馬県内外の中学校野球部を対象にした、交流試合です。

■【自然体験活動指導者養成研修試行事業】  
※2泊3日  
・11/2(土)～4(月)  
自然体験活動の特定プログラムの指導に当たる指導者の養成研修を試行実施します。学校教育における体験活動の位置づけや、自然体験活動指導者のしくみと役割を学びます。



■【日独指導者セミナー】  
※3泊4日  
・12/1(日)～4(水)  
日本とドイツの様々な青少年問題やその対応策等についての情報交換や意見交換を行うなどの研修を伴った相互交流事業を実施する予定。

■【あかぎサンサンかがやきキャンプ】  
※1泊2日  
・2/8(土)～9(日)  
障がいのある子もいない子も一緒に楽しく活動することを通して、互いを尊重し、認め合うことができるようになる。メインプログラムは雪遊びと星空観察を実施する予定。



■【H26年度予約受付が始まります!】  
【4月～7月 ご利用分申込】  
10/4(金) AM10:00～  
※初日は電話のみで受付  
【8月～3月 ご利用分申込】  
10/11(金) AM10:00～  
※初日は電話のみで受付  
10/4、11以外はHPで空き状況をご確認の上、お電話またはE-mailにてお申し込みください。

## プログラム紹介!

【アドベンチャーラリー】

オリエンテーリングコースの一部を利用して、専用の地図を見ながらまわるポイントラリー形式の活動です。指導者の数に応じて、コース上にあるオリエンテーリングポストに人を配置します。無人ポイントではポストに書いてある数字や記号を書き写します。有人ポイントではグループで協力しながら課題を解決するゲームを行います。

コース取りを決めたり、課題に挑戦したりしていくことを通じて、友だちへの思いやりを学ぶこともできます。グループの力を高め、メンバー同士の絆を深めるという効果が期待できる活動です。

1グループ6～8人が活動に適していて、200名まで一度に活動できます。直接指導では、最初に全体でレクリエーションを行い、その後、団体の指導者は有人ポイントに立ち、課題の担当をします。また、要望があれば、団体の指導者の方に、ゲームの進行についてレクチャーも致します。



団体のみで行う間接指導でも実施することができます。

自然の中で活動し、グループの質を高める活動ができるアドベンチャーラリーを検討してみたいかですか?  
(文:木暮)

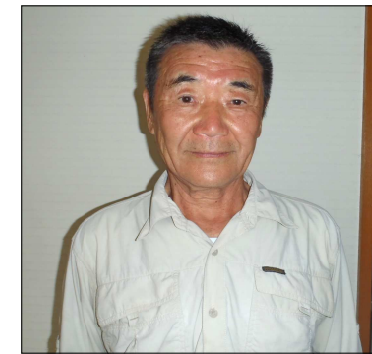
MAPを見ながら行先を決めます。

国立赤城青少年交流の家で活躍する、講師やボランティアの方をご紹介します

## この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 研修指導員(登山)

森永 桂一さん



本所の研修指導員の森永桂一先生は、年間50回以上の登山をしている。誰よりも赤城山を熟知し、豊富な経験を活かし、小・中学生を中心に安全で安心な登山研修を行っていただいている。

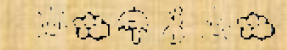
そんな森永先生に登山の魅力を伺った。自然の雄大さや大きさを実感するときであり、赤城山をはじめ、上毛三山や谷川岳、尾瀬には素晴らしい自然がたくさんあるという。

谷川岳の岩壁をパートナーとザイルを結びあい登山したとき、人間を本当に信頼し合えることができたそうである。登山研修を行う上で心がけてほしいこととして、「ゴミは持ち帰る」、「来た時よりも美しく」、「石は投げない」。

落石は大きな事故につながる。また、遭難で一番多いのは道迷いで、いつも地図を見ながら自分のいる位置を確認すること。何十年も山登りをしているでも遭難にあうことを忘れてはならない。そしてなによりも助け合い、励まし合いながらの登山を心がけてほしいとのことでした。(文:新井義)

植物や見どころなどを話しながら、赤城山を一緒に登ってくれます。

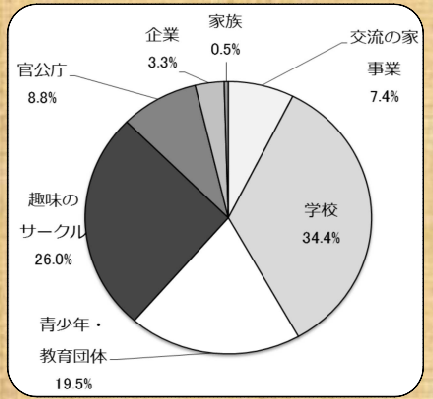
## 利用のようす(8～9月)



■8月の利用者数  
…14,003人 123団体

■9月の利用者数  
…13,043人 92団体

★利用団体  
種類別の割合⇒



## 施設周辺の植物

群馬の食べ物といえば…下仁田ねぎ。小麦は、水沢うどん、おつきりこみや、ひもかわうどんになりますね。しかし、忘れてはいけないのがこんにやく。職員が赤城農園でチャレンジしています。



この植物は、植え付け→収穫を3年続けて初めて食べられます。

室町時代に南牧村で栽培されていたという記録もあり、古い歴史をもちます。写真は1年生ですが、農園には2年生も。来年の収穫が楽しみです。

所内にはたくさんのカエデがあります。植物は子孫を残すために様々な工夫をしていますが、カエデは風によって種子を散布します。



風に吹かれてくるくる飛んでいく姿はとても不思議です。

これをモデルにした「くるくるタネ」というクラフトも用意しています。ぜひやってみてください。



くるくるタネの見本です→

## ご寄付の報告

「エコロジー促進事業協同組合様」にご寄付を頂きました。

この寄付金は、カラゴロリの活動目的にそって、有効に活用させていただきます。

たくさんのご寄付を頂きましたことに心より御礼申し上げます。

